

2021年2月8日

## 日本オリンピック委員会における森喜朗会長の女性差別発言に抗議する談話

日本退職者連合  
男女平等参画推進委員会

### 1. オリンピック憲章に反する森会長の発言に抗議する

東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の森喜朗会長は、2月3日の日本オリンピック委員会（JOC）臨時評議員会で「女性がたくさん入っている理事会の会議は、時間がかかります」「女性っていうのは競争意識が強い。誰か1人が手をあげて言うと、自分も言わなければいけないと思うんでしよう」と発言した。これは女性に対する蔑視発言であり、断じて許すことはできない。退職者連合として強く抗議する。

森会長の発言は東京オリンピック・パラリンピックの重要な理念である男女平等参画と異なるものであり、不適切な言葉につきる。

2月4日の記者会見で「反差別や男女平等原則の完全実施をめざす五輪精神に反するものだった」と謝罪し発言を撤回したが、女性が軽んじられる社会は、弱者や少数派も差別する社会につながる。

今回の発言は男女平等参画推進を取り組んできた私たちの運動を愚弄するものであり、断じて許されるものではない。国際社会において日本の人権感覚に対する疑念を招いた発言は組織委員会会長としての適性を欠いたものであり速やかに辞任を求める。

### 2. 不平等を許さない、誰もが暮らしやすい社会へ

2019年12月世界経済フォーラムが公表したジェンダーギャップ指数で日本は153カ国中121位だった。諸外国では多様性を尊重し、女性にチャンスを与えようと、男女格差のない取り組みを進めている。

現在、新型コロナ感染拡大で多くの女性が解雇・雇止めやDVによる被害を受け、女性の自殺者も増加している。外国人・障がい者・学生・高齢者など多くの方が苦境にたたされている。コロナを克服し、不平等を許さない誰もが暮らしやすい社会が求められている。

退職者連合は、男女が性別にかかわらず個人として尊重され、対等な立場であらゆる活動に参画することを目標に活動している。誰もが平等に参画できる社会に向けて活動を進めていく。

以上